

(様式4)

## 令和4年度 東小学校英語科特例校の実施状況について

大泉町立東小学校

### 1 英語科特例校の内容

小学校1・2年生において、「外国語活動」を実施する。

近年、国際化・グローバル化が進んでおり、今後その流れはますます大きくなることが予想される。現在の新学習指導要領では、3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が新設され、外国語教育の一層の充実を図ることとなっている。そこで、大泉町内の全ての小学校において、特別の教育課程を実施し、早期から英語の学習を始めることで英語教育の充実を目指していく。

### 2 児童アンケートの結果

<質問項目>

①「外国語活動」の時間は、楽しいですか？	98.6%
②「外国語活動」の時間は、先生や友達とすすんで英語で話していますか？	86.8%
③英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	96%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・楽しい。
- ・英語が好き。
- ・先生の話していることがわからない。

### 3 保護者アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	96.5%
②お子さんは、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	92.4%
③お子さんは、英語であいさつをしたり、英語で言ったり、答えたりすることができますか？	69%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・子どもがよく「この英語知ってる？」と習った英語を話しており授業が楽しそう。
- ・楽しそうではあるが、身につけているかといわれると怪しい。
- ・できれば1年からちゃんとした授業として取り入れてほしい。

#### 4 教職員アンケートの結果

##### <質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	100 %
②児童は、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	94.4 %
③児童は、英語であいさつをしたり、英語で簡単な質問に答えたりすることができますか？	100 %

(数値は肯定的な回答の合計割合)

##### <自由記述>

- ・年齢が低いうちに英語に触れることで、上の学年でも英語に進んで親しめる。
- ・親しむを優先にしてしまうと、特に書けなくても話せなくても先に進んでしまう。学習させるのであれば、アルファベットが正しく読め、書けるようにする必要がある。
- ・「簡単すぎるやりとりの繰り返し」にならないように気をつける必要がある。

#### 5 成果と課題

##### <成果>

- ・英語の授業を受けている児童がどう感じ、どう思っているのかの実態がわかった。
- ・今後の英語教育をどうしていくべきかの指針が立った。  
具体的な案もいくつか得ることができた。

##### <課題>

- ・楽しく授業を受けられている児童は授業内容の覚えも良いと感じるが、その反面、あまり楽しそうにしておらず、英語に対して後ろ向きな児童は理解に乏しいと感じる。理解の差をどう解消していくかは課題であると思う。
- ・外国の言葉を学んでいくことで大切なことは親しむや楽しむということだと思われるが、低学年だからといってそこばかりに重点をおいてしまうのは今後の教育において良いとは言えないと思われる。  
楽しむ中にも押さえるべき点などを明確にし、バランスをとっていくことが今後の課題であると思う。

#### 6 学校関係者（学校評議員）の評価結果

- ・低学年児童が生き生きと活動している様子が見られて、とてもよかった。
- ・低学年から英語をやるなら、聞き取りに重点を置くのが良いと思う。発音の習得については、学校での英語の時間が初めて児童がネイティブに触れる機会なので、予算の関係もあるかもしれないが、よりよい発音に触れるために、発音（聞き取りやすさ）をALTの採用基準に入れてほしい。